

ボールの飛距離の測定に取り組む児童ら＝米原市の河南小で



## 児童ら測量体験 歩幅や身長も

河南小 機器使い方や地図大切さ学ぶ

**米原**

6月3日の「測量の日」にちなみ、米原市河南小学校の6年生約30人が4日、測量体験学習に取り組み、測量や地図の大切さを学んだ。

県測量設計技術協会が主催した。児童たちは、国土地理院近畿地方測量部の鈴木啓・測量課長から、きちんと測量しないとトンネルや線路がずれてしまう危険があることなどを聞いた。国土地理院が所有する航空写真で、60年前と今の河南小の様子を比べ、測量記録が地形の変遷を知る手掛かりになることも知った。

測量体験では、20メートルを歩いて自分の歩数を数え、1歩あたりの歩幅を調べる「歩測」や、投げたボールの長さを歩いて歩数を数え、歩数と歩幅の距離を掛

け合わせてボールの飛距離を測定した。測量機器を使い、身長の測定などにも取り組んだ。

神門来実さん(12)は「本

物の機械の使い方や、歩幅の測り方を優しく教えてもらえた」、古川璃奈さん(11)は「機械で詳しく位置の情報を調べられて楽しかった」と話した。

(形田怜央菜)